

## 応募にあたって知っておいて欲しいこと

応募にあたっては、所属先(地方競馬場の厩舎)を決めてからでも、あるいは決まっていなくても構いません。しかし、大切な人生の目標としてこれから進む道ですので、競馬社会を良く理解して応募して下さい。

### 1 騎手という職業

騎手は、プロのスポーツ選手です。二年間でプロの道を目指し、フェアでプレーする精神を身につけます。馬に騎乗する技術ではありません。公正に実施される競馬の中で、常に注目される存在です。

### 2 体重調整

騎手にとって体重を調整することは最も重要なことの一つです。当センターでは教育期間中、個人差はありますが2~4 kg増加しますので、各々の騎手候補生に対し、年齢区分毎に規定体重を指定し、修了時の規定体重 49.0 kgに設定しています。

騎手候補生は、栄養管理された毎日の食事以外に、自主的に体を動かし、プロの騎手として通用する体づくりを目指しています。

### 3 起床時間

候補生の1日の流れ

当センターの起床時間は午前5時半。午前中に3頭の実技訓練と、午後から騎手に必要な教養を得るため学科の授業があります。その内容は法規、馬術、馬学、調教、管理、衛生と多岐に渡り、プロスポーツ選手を目指すためメンタルトレーニングや、体の使い方を習得するためフィジカルトレーニング、武道(剣道)を通して礼儀作法を学びます。

### 4 修了生の感想文から(一部抜粋)

#### ◆第104期騎手候補生S君(令和5年3月修了)

乗馬未経験で入所したため、周りについていく事で必死でした。初めの1ヵ月はものすごく長い1日に感じましたが、だんだん生活にも慣れ同期の仲も深まり気持ちに余裕を持てるようになりました。騎乗訓練では、思った通りの騎乗ができず、すごく悩んだことを覚えています。競走訓練に入り、毎日馬にもっていかれてしまったり、上手く騎乗ができないまま第3学期になりました。そして後輩が入所し、かなり生活が楽になり毎日が楽しかったです。

競馬場実習では楽乗りを覚えてしまい、毎日楽乗りをしてしまった事を今は後悔しています。実習が終わりセンターに帰所すると、また地獄の生活がスタートしました。その頃、寄宿舍でコロナ感染者が出て、感染防止対策で月2回の外出も止まり、ストレスがすごくたまりました。楽しみにしていた行事がつぶれる事も多く不満も溜まりました。

教養センターで2年が経ち、最初は馬に乗れなかった僕をここまで成長させてくれて本当にありがとうございました。でも、やっぱり1番は訓練馬に感謝したいです。正直、自分の感情で馬に当たってしまった事もあったけど、暑い日や雨の日、強風の日、雪の日、

寒い日と、どんな時でも僕を乗せて走ってくれてありがとう。この2年間本当にありがとうございました。

◆第104期騎手候補生 K 君（令和5年3月修了）

2年前の4月、夢と希望を抱き入所しました。最初の頃は時間に余裕がなく、戸惑ってばかりでした。入所して2週間くらいで家に帰りたくなったこともありました。でも馬に乗る事はすごく楽しかったし、徐々に同期の皆とも会話が増えていったことで励みになりました。

第1学期は、作業では苦痛とを感じる事はほとんどなかったですが、騎乗での馬上体操は先生に怒られてばかりで凄く苦痛に感じました。でも、訓練以外に楽しみもありました。日光旅行や外出も始まり、他にも様々な行事で皆と楽しんで乗り越えることができました。徐々に競走訓練が始まりましたが、馬場での基本馬術とは全然違う感覚で、走路での騎乗で初めて馬にもっていかれた時は凄くショックでした。第3学期からは、競走訓練が本格的に始まりました。皆は難しい馬に次々に乗れるようになる中、なかなかうまく乗れなくて悔しい時もありました。

競馬場実習では乗る頭数も増え、生活のリズムも違うのでハードでしたが、先輩騎手や調教師の先生からいろいろなことを教えていただいたり馬から学ぶことも沢山ありました。

今までお世話になった教官の先生、馬場の整備をしてくださった管理課の先生、暑い時も寒い時も一生懸命走ってくれた訓練馬たち、本当にありがとうございました。